

味覚については生食の機会が多い地元の人は美味しくないと断言する人が多い。そのことを加味して観光土産として定着させるためには、加工方法の工夫が必要な時期がくるものと思われる。

8. 総 括

(1) 活動結果の概要

昭和58年度の活動結果の概要は表8に示した。

表8 活動結果の概要

年月日	活 動 の 内 容
昭和58. 4. 15	普及部門と業務打ち合わせ
5. 10	普及部門と業務打ち合わせ
6. 6	ヒメジャコ放流(ブロック法)
6. 7	普及部門と業務打ち合わせ
6. 9	行政部門と業務打ち合わせ(漁政課)
6. 10	行政部門と行務打ち合わせ(水産振興課)
6. 15	大型シャコガイ生息状況調査
6. 17	調査目的についての説明会及び情報収集
6. 24	ヒメジャコ放流打ち合わせ(登野城地区)
6. 29	ヒメジャコ放流(折衷法)
7. 10	普及部門と業務打ち合わせ
8. 19	普及部門と業務打ち合わせ
9. 3	市場調査
9. 5	ヒメジャコ放流(ブロック法)
10. 2	放流打ち合わせ
10. 31	普及部門と業務打ち合わせ
11. 5	市場調査
11. 11	ヒメジャコ放流
11. 12	聞き取り調査(登野城地区)
昭和59. 2. 16	普及部門と業務打ち合わせ
2. 18	聞き取り調査(登野城地区)
2. 21	聞き取り調査(加工業者と登野城地区)
2. 23	聞き取り調査(小浜島、細崎地区)
2. 24	聞き取り調査(小浜島、細崎地区)
3. 23	組織的調査研究活動推進事業報告会議(広島)

(2) 総合考察

石垣市及び竹富町のシャコガイ漁業の現状を沖縄農林水産統計年報と聞き取り及び標本船調査により把握するように努めた結果、次のような問題点が生じ、指摘があった。

(イ) 漁業者がシャコガイ漁業のみでは生計が立てられなくなっている。他漁種への依存率が高くなっており一本釣、刺網、追い込み、定置網等の他の漁業種類との競合や他資源の加速度的な食いつぶしが懸念される。漁獲量の激減原因は乱獲であると漁業者自身が認めている。また一部赤土の流出による漁場の消失及び荒廃を指摘している。現時点でのシャコガイの漁

業規制には大筋で同意している。漁期制限、漁獲サイズ規制の中で漁期制限の夏期の禁止には反対もあった。漁獲サイズについては貝殻のないむき身で取りしめることが出来るのかという質問もあった。

- (ロ) ヒメジャコの種苗放流や栽培漁業については漁業者の関心は高いが埋め込み法のように放流作業量が多いこと、収穫までの期間が長いこと（成長量1.5～2.0cm/年、殻長8cmになるまでに放流後4～5年かかる）、そして漁場の管理（最終受益者の問題）を指摘している。
- (ハ) 加工業者は原材料の不足を指摘し、製品については観光土産として売られているので原材料さえ確保できれば見通しは明るいとしている。
- (ニ) シャコガイを料理の材料として購入している飲食店ではあまりにも高価になり過ぎて使うのは無理が生じていると述べ、一般消費者も高級品になり食べられないとの指摘があった。

今後これらの問題点を試験研究、行政、普及の各部門で解決していく方法を検討する必要がある。しかしながら石垣島のシャコガイ漁業の全ての根本問題は、漁獲量の大巾減少と漁獲サイズの小型化にみられるシャコガイ資源の枯渇に近い現状である。このことは他漁業への影響をも考慮して資源回復の手段を早急に講じなければならないところまでできていると言える。

このためには沖縄県が石垣島・川平湾の保護水面区域内でヒメジャコの資源の回復について証明したような資源管理型漁業と、現在試験研究を進めている資源培養型の併用策の強力な推進が必要であると考えられる。

引用文献

- ・ 沖縄開発庁沖縄総合事務局農林水産部（1973～1983）：第1次～第11次沖縄農林水産統計年報。
- ・ 沖縄県水産試験場八重山支場（1982）：昭和56年度川平保護水面調査報告書。1-19。
- ・ _____（1984）：昭和58年度保護水面管理事業調査報告書。3-26。
- ・ 沖縄タイムス社（1983）：沖縄大百科辞典。
- ・ 村越正慶・前田訓政（1976）：シャコガイの増殖に関する試験研究-I。昭和49年度沖縄県水産試験場事業報告書。51-69。